

発行所
津田サイエンスヒルズ
まちづくり協議会
〒573-0128
枚方市津田山手2-9-5
大阪大学内
TEL (072)858-5901
FAX (072)858-5904
(題字:墨アーティスト 橋 笠 幸 三 書)



南大阪校で説明を受ける

平成25年4月開校予定の府立高等職業技術専門校(技専校)仮称北部校の津田サイエンスヒルズ進出にあたり、産業拠点内企業との連携が重要となり、地元として期待している。津田ヒルズまちづくり協議会は、平成18年4月、既に開校している府立南大阪校の視察を行うために、昨年11月25日、20名の経営者らが、吉泉産業株式会社社に集合、京阪バスで視察地に向かう。



産技研の視察

午前中は、技術開発推進拠点「産技研」の視察を行った。最初は、当研究所の南務所長から、概要説明があり、その後、2班に分かれ、機械金属、情報電子、化学環境などの実験棟を見学。案内人の説明に対し、活発

■テクノステージ和泉まちづくり協議会から阪口会長のご挨拶があり、「現在114社4700人の従業員をかかえ、年3回のクリーンデー(清掃活動)の実施、自主防災連絡会の開催、ビジネス連携サロンの開催、南大阪校との連携して人材育成事業の取り組みや

■テクノステージ和泉まちづくり協議会を表敬訪問

テクノ講座の参加、研修会の開催など、多岐にわたる事業に取り組んでいる。特に、和泉市・和泉商工会議所と緊密なつながりで事業を展開していた。今回の視察会を通じて、「参加者から学ぶ点が多かった」と語る。

府立技術専門校・北部校 平成25年春開校予定

ものづくり企業を支援

府立産業技術総合研究所

午前中は、技術開発推進拠点「産技研」の視察を行った。最初は、当研究所の南務所長から、概要説明があり、その後、2班に分かれ、機械金属、情報電子、化学環境などの実験棟を見学。案内人の説明に対し、活発

歴史深い和泉の地 南大阪校を訪れる

午後からは、府立南大阪高等職業技術専門校「テクノセンター南大阪」を視察する。本校は新規学卒者から離職者まで幅広い年代の方を対象とする職業技術専門校で、技術革新、環境問題に即した職業に向けて、最新のコンピュータ機器などを導入し、技術者の育成を行っている。北部校は平成21年基

本計画策定、平成22年基本設計、実施設計、平成23年、24年建設工事、平成25年春開校予定との説明が大阪府雇用推進室人材育成課からあった。北部校で実施される訓練・機械系先端技術分野・電気・電子先端技術・建築系先端技術の3分野となり、微細加工などNC加工、三次元計測、ロボット構造、制御技術、組み込みソフトウェア開発などの技術訓練を行う。

ホームページを開設

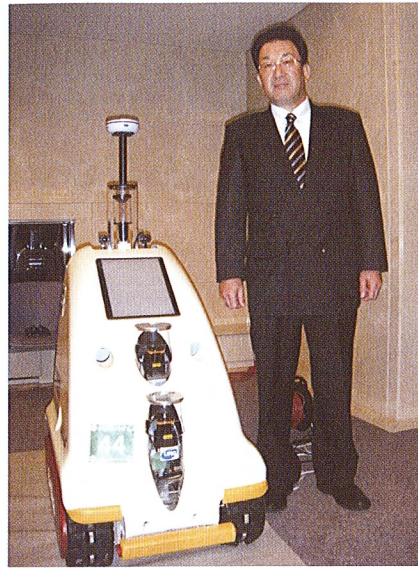
津田サイエンスヒルズ
まちづくり協議会
ホームページアドレス
<http://tsuda-science.jp>
メールアドレス
matikyou@tsuda-science.jp

津田サイエンスヒルズ 掲示板

つくばチャレンジ2009へ

枚方産学ジョイントチームの挑戦

昨年の11月28日、第5回枚方産学公連連携フォーラムが、輝きプラザきらら内の枚方市立地域活性化支援センターで開催された。当日、ひらかた地域産業クラスター研究会の会長佐々木啓益氏(吉泉産業株式会社)が開会の挨拶、続いて産学公連携事例発表「つくばチャ



S.S.Tグループは、自律走行ロボットを制作

月は、72チームの参加、自律走行ロボットを製作、実走させた。SSTグループは、設計・開発・試作・加工・製造など23社が集うグループ企業で、このロボットは、週1回仕事が終わった後集まり、夜遅くまで製作に取り組みで完成したもので、今年も挑戦するとのこと。

交野市には、ひこにゃんよりも古くから「星の天満(あまん)」という観光キャラクターが存在。交野市民でさえ知っていない人も少なく、交野市観光協会が何とかPRできないかと、SSTの社長、坂本喜晴氏に相談を持ちかける。そこで、PR素材として等身大サイズのモデル

交野市の観光キャラクター「ひこにゃん」の制作

を発泡スチロールで製作した。このモデルは、イベントなどに貸し出したりしていく予定。また、今年の春には交野市観光課や観光協会と協力して、交野市にしかない、地域から絶賛される土産品を開発、販売していく予定。現在、人形焼やどら焼



など10種類の商品見本が完成し、2月には、試食会を開く。その他、全国各地のキャラクターや土産品などの商品開発に取り組んでいる。

デンマークのフレンドドッグが初上陸

森下仁丹株式会社 外食産業をスタート

森下仁丹株式会社は、新規事業の一環として、外食産業をスタート。デンマーク生まれのフレンドドッグ「ホールドバケット」を現在ユニバーサル・シテイウオークに本店している。

い車で移動販売を開始した。昨年の11月20日、初めて、津田ヒルズの森下仁丹株式会社大阪テクノセンター前で販売、大変好評で、あつというまに売り切れてしまう。「ホールドバケット」は、デンマーク発祥で、北欧では、フレンドドッグと呼

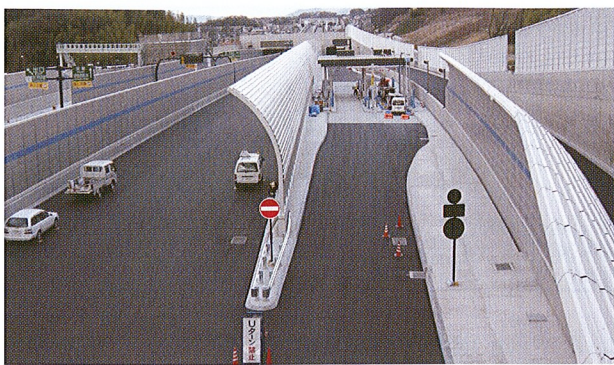
ばれ、大変根強い人気を誇っている。穴の開いたバケット(スティック型のフランスパン)にソーセージなどの具を入れ、日本では、今までになかった新しいファーストフードである。棒状の専用加熱器で焼き上げたバケットは外側のサクサク感と内側のモチ



り感を生み出している。今後は、定期的に月1回程度の販売を計画しており、出張販売も可能とのこと。

第二 全線開通プレイベント 京阪 枚方学研IC道路開放 3月14日

本年3月20日開通予定の第2京阪道路上で全線開通プレイベントが3月14日に開かれる。開通後の利用促進を図るため、当日ウォークイベントが行われ、午前11時30分から午後2時30分(3時間)枚方学研ICから大阪方面に向け、大阪府民(約3千人)が参加予定。



津田サイエンスヒルズ連絡橋より 開通前の第二京阪道路

大阪府もサイクリングイベントを同時開催

枚方東ICから門真ジャンクションの約15キロコースを設定。スポーツカーの自往復の約30キロで

さらにオープニングイベント(道路開放)は、枚方学研ICを中心に、周辺の枚方市民が参加。事前にHPや広報にて周知、市民展望ゾーン、枚方市PR展、おもしろ自転車イベントゾーン、ブースゾーンには、津田サイエンスヒルズまちづくり協議会も参加予定。

彩都中部地区平成25年度中に「まちびらき」企業誘致活動推進

昨年の12月21日、津田サイエンスヒルズに彩都(国際文化公園都市)建設推進協議会の8名が来訪。同協議会は、北大阪の丘陵地で自然と都市が調和するアメニティ豊かな都市づくりを目指し、大阪府、茨木市、箕面市、都市再生機構や民間開発事業者をはじめ経済団体、大学、研究

機関などの参加を得て設立。彩都は全体計画面積743畝、西部地区は戸建住宅や集合住宅が供給され、現在6500人の方々が暮らしている。



今回の中部地区(63畝)は、平成25年中のまちびらきに向け、企業誘致活動や具体的なまちづくりに取り組みたいとして、津田サイエンスヒルズに立地している企業(株式会社アスク、吉泉産業株式会社、植田工業株式会社)を



植田工業(株)を視察する。都をはじめ大阪府内の他地区にも波及していくことが期待される。



津田サイエンスヒルズ入口に広告塔完成

株式会社 サワコーポレーション



代表取締役 片岡 得氏

地球環境を護る 超音波洗浄技術
創業者の澤入精氏(現会長)は、松下電器に勤めていた77年頃、世界初の表面実装工法採用のカード型薄型ラジオ「ベッパ」開発チームに参画した経歴の持ち主。

また、製品不良削減には実装工程で使用されるメタルマスク(印刷版)の洗浄の重要性に気づき、同業他社には真似のできない超音波洗浄技術を武器に、微細領域の汚れを高速洗浄する技術を用いることで

地球環境に優しくオゾン層を破壊しないメタルマスク洗浄機を開発。通常の鉛レス半田ペーストをメタルマスクから除去することは、従来方式では難しかったが、同社の「サワークリーン」では従来方式の百分の一の電力量で完全除去を実現。最近では産官学の共同研究にも力を注ぎ、



SC-ER360W (エコロール)

従来廃棄していた印刷機のクリーニングペーパーを洗浄してリユース

09年6月には北大阪商工会議所から環境改善優秀賞を贈られた。片岡得代表取締役は

「今後は有機溶剤を使わず、水系の洗浄剤を使った製品に力を入れる」と展望を示す。

津田ヒルズ立地企業を訪ねる

当エリアに入居している企業の業務内容や社会的意義を順次紹介

株式会社カナエ技研



代表取締役 竹内 順一氏

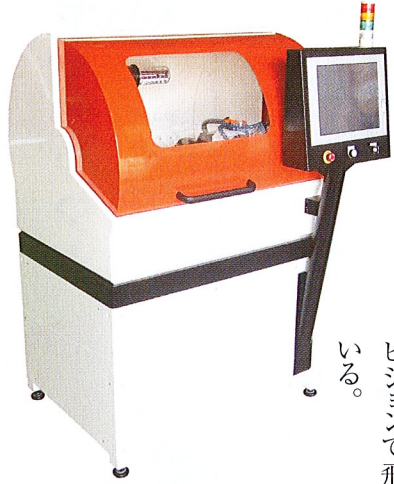
ピンチはチャンス 冬は必ず春となる

社名の「カナエ技研」には、91年の創業時に竹内順一代表取締役が、夢を「叶えたい」と願った思いが込められている。「技術力が勝負」を常に念頭に置き、業績を堅調に維持してきた。

97年には大阪府枚方市に自社工場を移転し、加工機械の増設を行った。

03年には海外工場より、切削工具の再研削用機械を受注し、プログラム開発・機械製造を開始。同年、自動ドリル再研削機を開発・製造

販売を始める。



DRM 5軸オート制御 立体加工を行う3D制御を高精度に実現。オペレータの熟練操作も不要。

この成長を支えてきたのは竹内氏が語る「他社ができない加工技術」を持つていること。業務拡張に伴い、広い作業スペースが必要となり、津田ヒルズに本社工場を移転したのは07年3月。現在、鳥取県にある米子事業所では主にソフト開発、機械設計、津田ヒルズでは加工技術を専門に行っている。竹内氏の座右の銘は「ピンチはチャンス。冬は必ず春となる」産業全体を取り巻く環境は厳しいが、確かな技術力と夢を「かなえる」という創業時のビジョンで飛躍を誓っている。